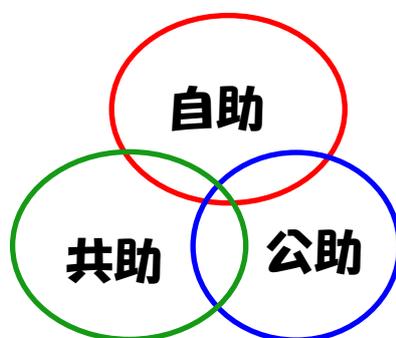


安城市校區別地震防災カルテ

学区：安城東部小学校区



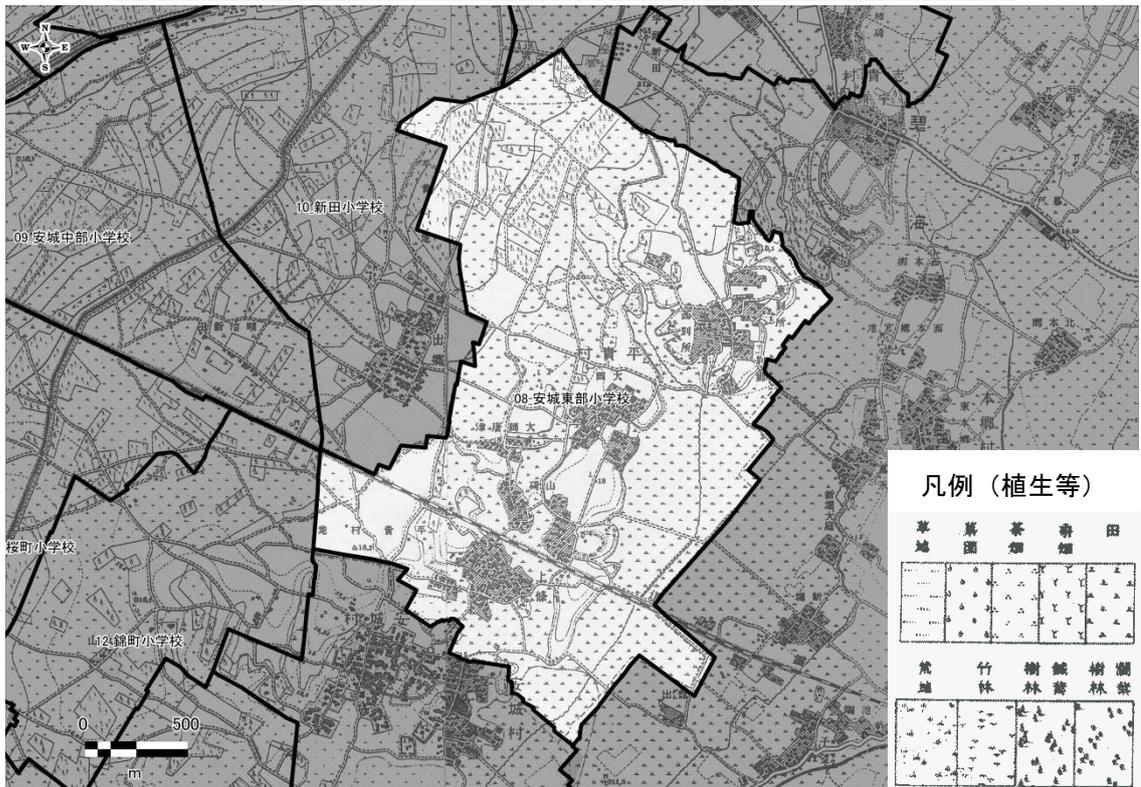
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

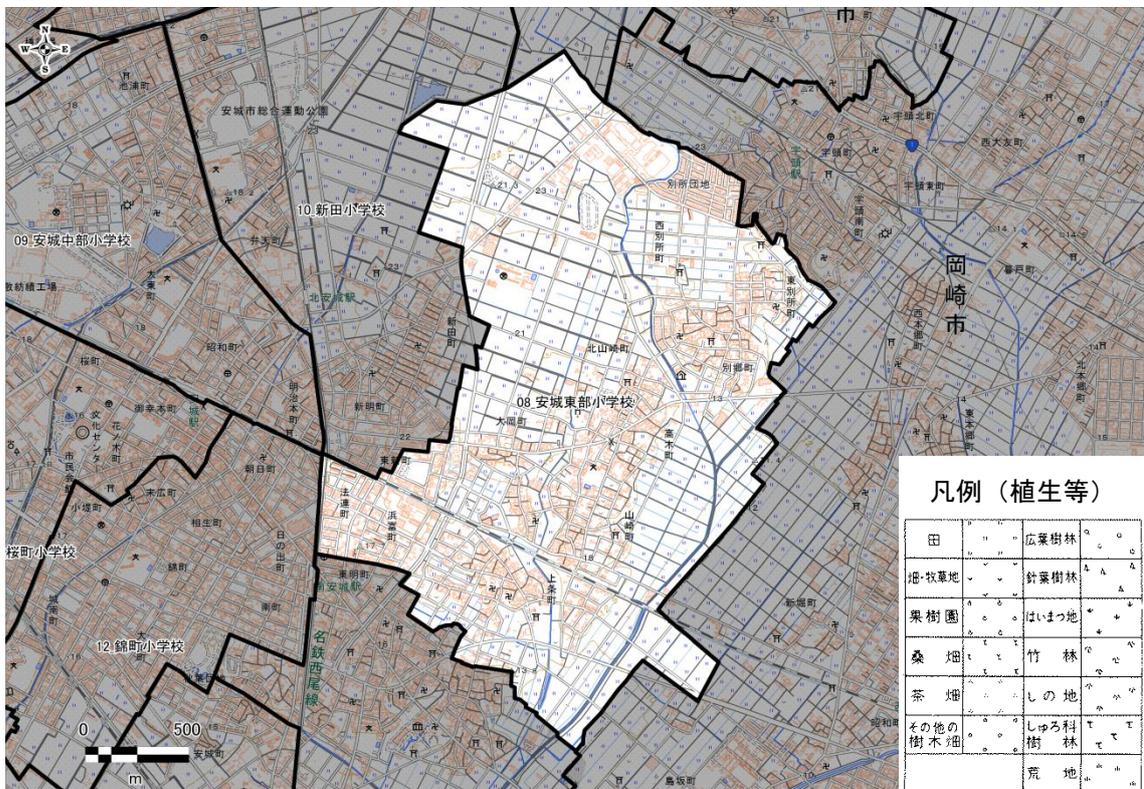
目 次

安城東部小学校区のむかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	9
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

安城東部小学校区のおかしと今



おかし（1890年（明治23年）ごろ）の校区付近の地形

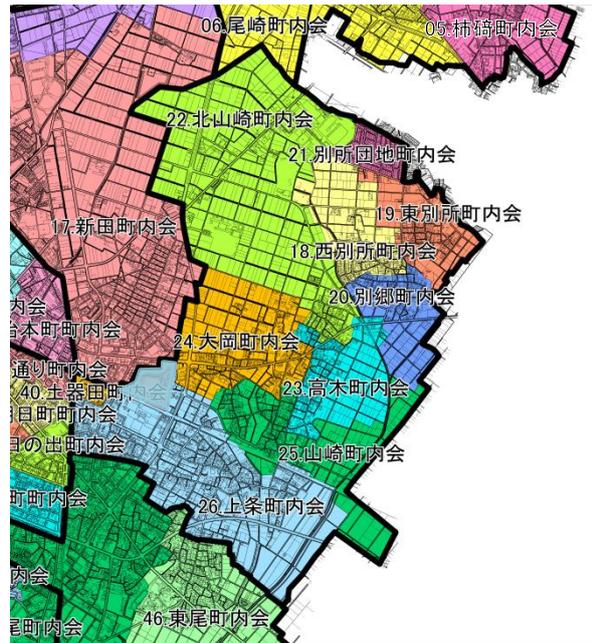


今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



校区面積約 4.45km²
(安城市全体の 5.2%)



町内会区分図

2. 校区の構成

西別所町、東別所町、別郷町、北山崎町、高木町、大岡町、山崎町、上条町、東新町〔9番(同町20番5以东)・11番から17番まで]、浜富町、法連町、東明町〔15番〕

3. 校区の概要

【位置】 安城東部小学校区は、市の東部に位置する。

校区の東部は、岡崎市との市境となっている。

【土地】 校区内には西鹿乗川が流れている。

標高は比較的高く、平地が広がっている。

【土地利用】 田畑が広がっており、住宅は校区の中心付近に集まっている。

【交通】 西部に県道安城桜井線（286号線）が縦断している。

南部に県道岡崎刈谷線（48号線）、中心付近に県道岡崎半田線（47号線）が横断している。

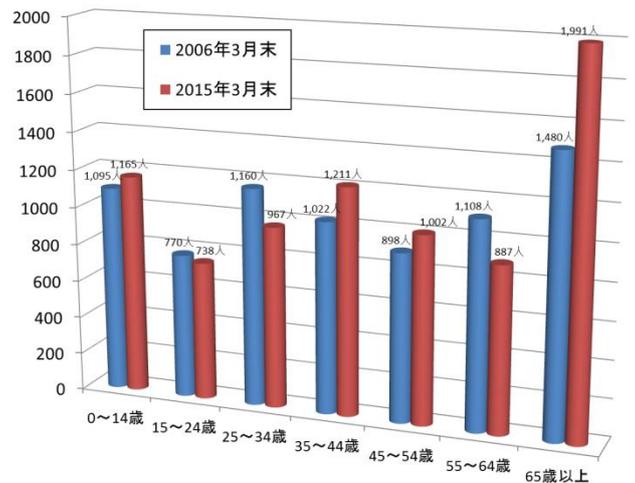
校区南部に東海道本線が横断し、南西部の錦町校区との境界に名鉄西尾線が通っている。

【その他】 町内会は、西別所町内会、東別所町内会、別郷町内会、別所団地町内会、北山崎町内会、高木町内会、大岡町内会、山崎町内会、上条町内会、土器田町内会、新田町内会

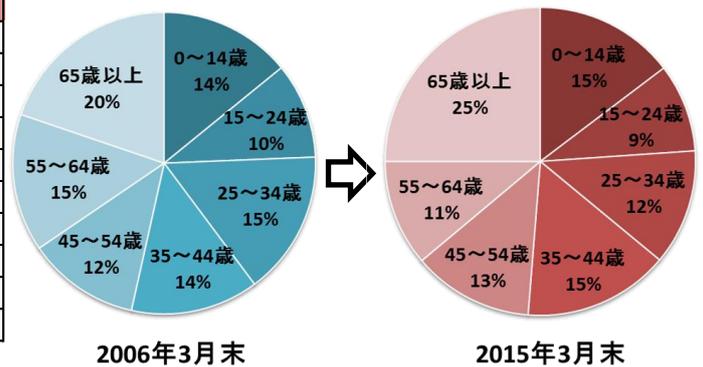
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,095人	14%
15～24歳	770人	10%
25～34歳	1,160人	15%
35～44歳	1,022人	14%
45～54歳	898人	12%
55～64歳	1,108人	15%
65歳以上	1,480人	20%
人口(合計)	7,533人	100%
人口密度	1,693人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	2,607世帯 (対全市 4.3%)	

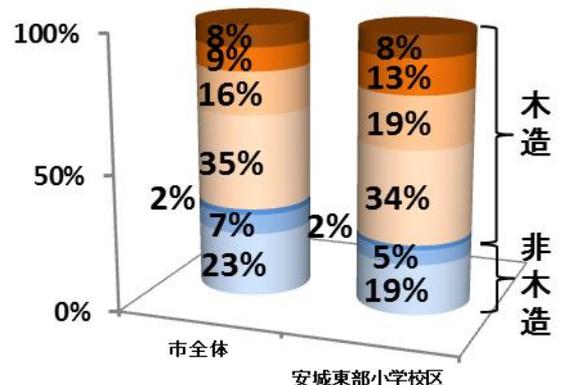


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,165人	15%
15～24歳	738人	9%
25～34歳	967人	12%
35～44歳	1,211人	15%
45～54歳	1,002人	13%
55～64歳	887人	11%
65歳以上	1,991人	25%
人口(合計)	7,961人	100%
人口密度	1,789人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	2,994世帯 (対全市 4.3%)	



【建物棟数】(2011年12月)

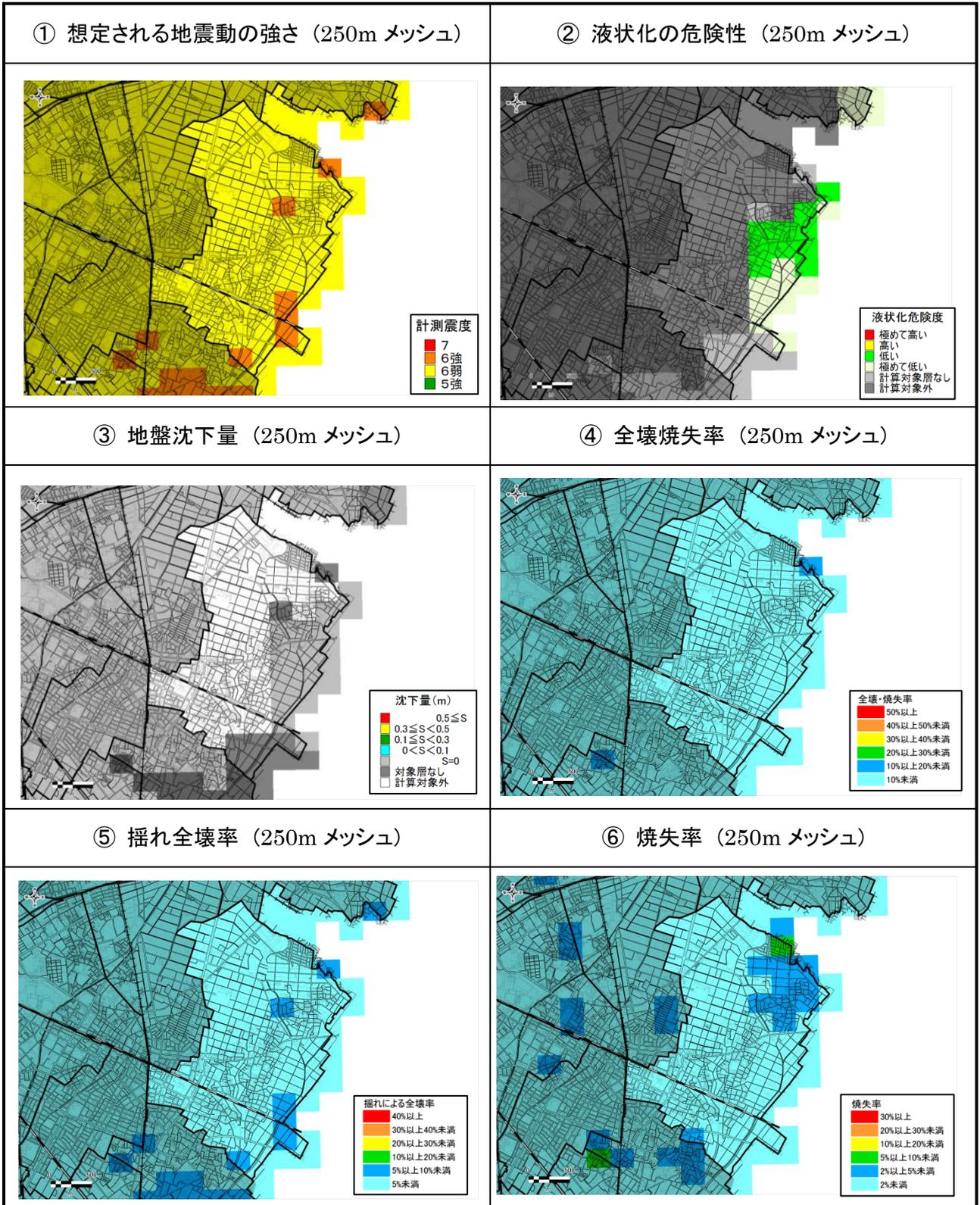
		建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	250棟	8%
	昭和37～46年	401棟	13%
	昭和47～56年	601棟	19%
	昭和57年以後	1,070棟	34%
非木造	昭和46年以前	54棟	2%
	昭和47～56年	172棟	5%
	昭和57年以後	584棟	19%
建物棟数(合計)		3,132棟	100%
1km ² 当たりの建物棟数 (校区/全市)		校区: 704 / 全市: 699(棟/km ²)	



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。



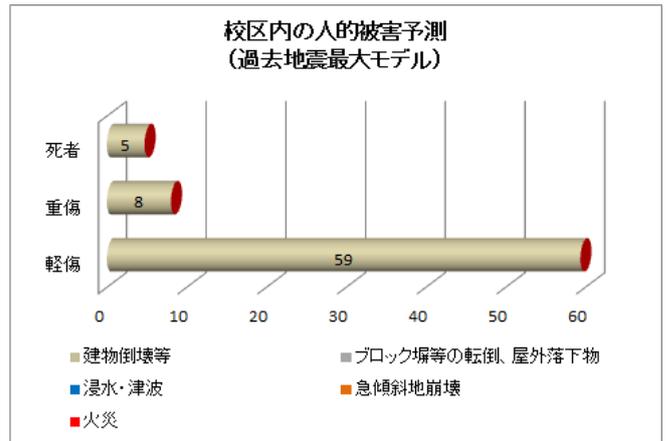
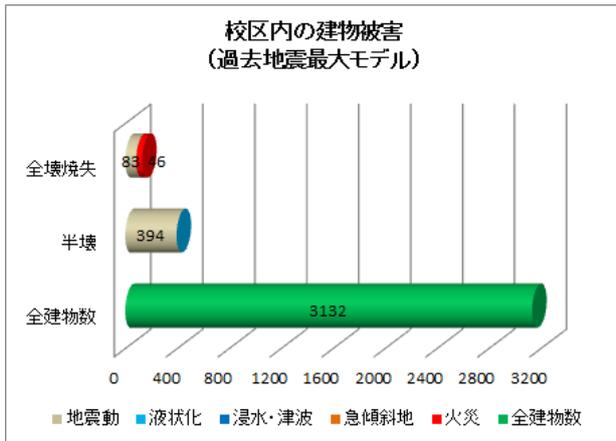
4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

安城東部小学校区は、震度 6 弱から一部震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、震度 6 強ははわないと動くことができないほどの非常に強い揺れである。したがって、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。
液状化に関しては、市境付近の低平地で液状化の危険性があるとされている。

<建物・人的被害の予測>

建物被害【冬・夕方発災】			人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の建物棟数3,132棟に対する割合			※()内は、校区の深夜人口7,748人に対する割合			
	全壊・焼失	半壊		死者数	重傷者数	軽傷者数
地震動	83	394	建物倒壊等	5	8	59
液状化	*	*	(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	*	(2)	(9)
浸水・津波	0	0	ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
急傾斜地	0	0	浸水・津波	0	0	0
火災	46	—	急傾斜地崩壊	0	0	0
建物被害総数	129(4.1%)	394(12.6%)	火災	*	*	*
			被害者数合計	5(0.06%)	8(0.10%)	59(0.77%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
安城東部小学校区	460	276	184	1,253	626	627	459	138	322
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

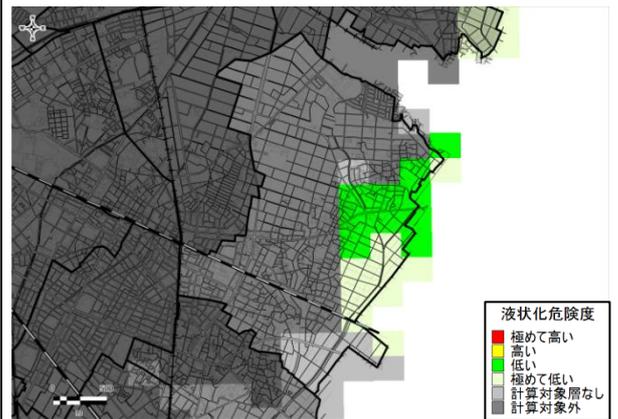
理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

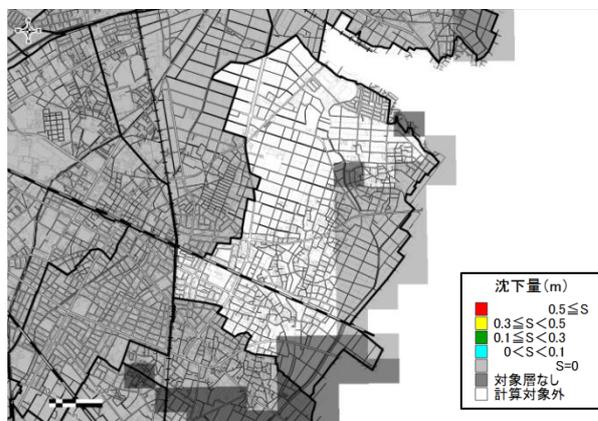
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



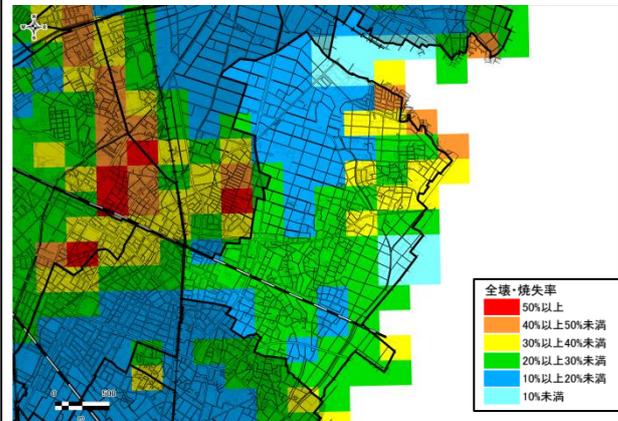
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



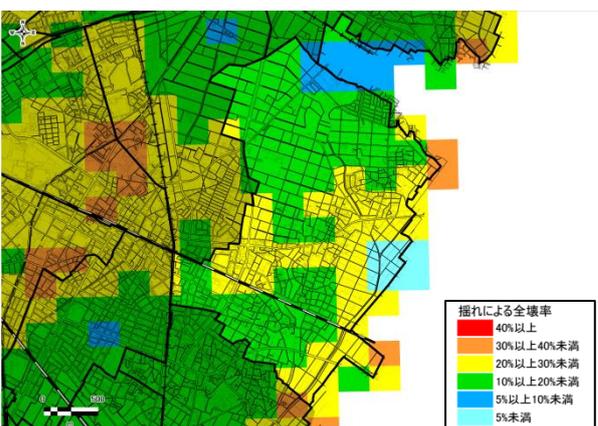
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



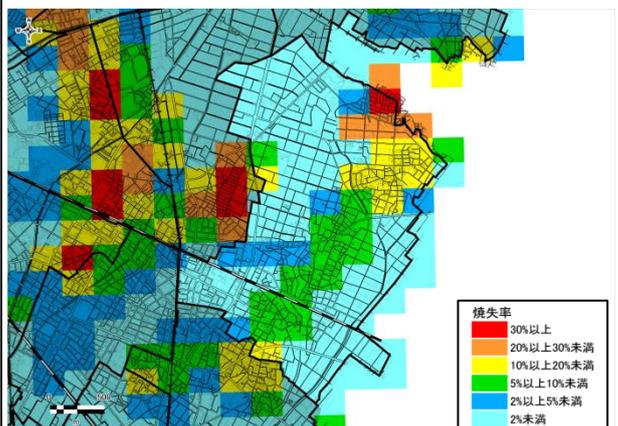
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

安城東部小学校区は、震度 6 強から一部で震度 7 の揺れが想定されている。はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。
液状化に関しては、市境付近の低平地で液状化の危険性があるとされている。

<建物・人的被害の予測>

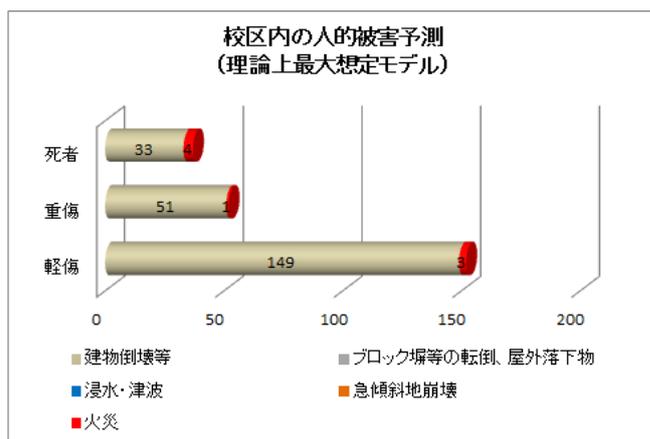
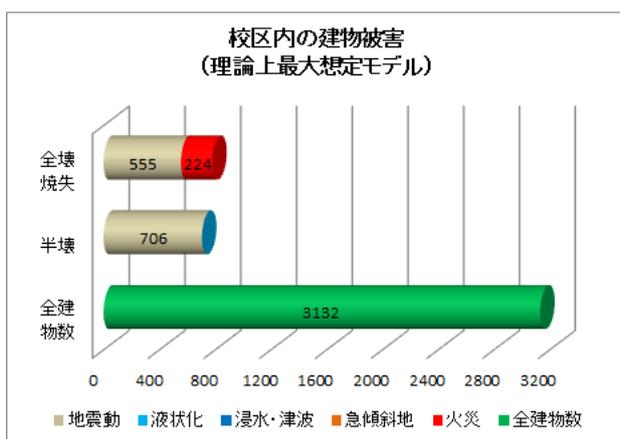
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数3,132棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	555	706
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	224	—
建物被害総数	779(24.9%)	706(22.5%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口7,748人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	33	51	149
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(2)	(10)	(42)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	4	1	3
被害者数合計	37(0.47%)	52(0.67%)	152(1.97%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	大岡交番
緊急時ヘリポート可能箇所	安城東高等学校グラウンド、安城東公園
消防署	—
消防団	平貴分団詰所、三別分団詰所、上条分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所*	—
自主防災組織数	11
防災倉庫・防災資材庫	安城東部小学校、安城東高等学校、東部公民館
応急給水施設	安城東部小学校、安城東高等学校、東部公民館
井戸	32
マンホールトイレ	—
学校	安城東部小学校、安城東高等学校
保育園	東部保育園
幼稚園	—
公民館・福祉センター	東部公民館

※大規模災害時にのみ開設される救護所

7. 避難所等一覧

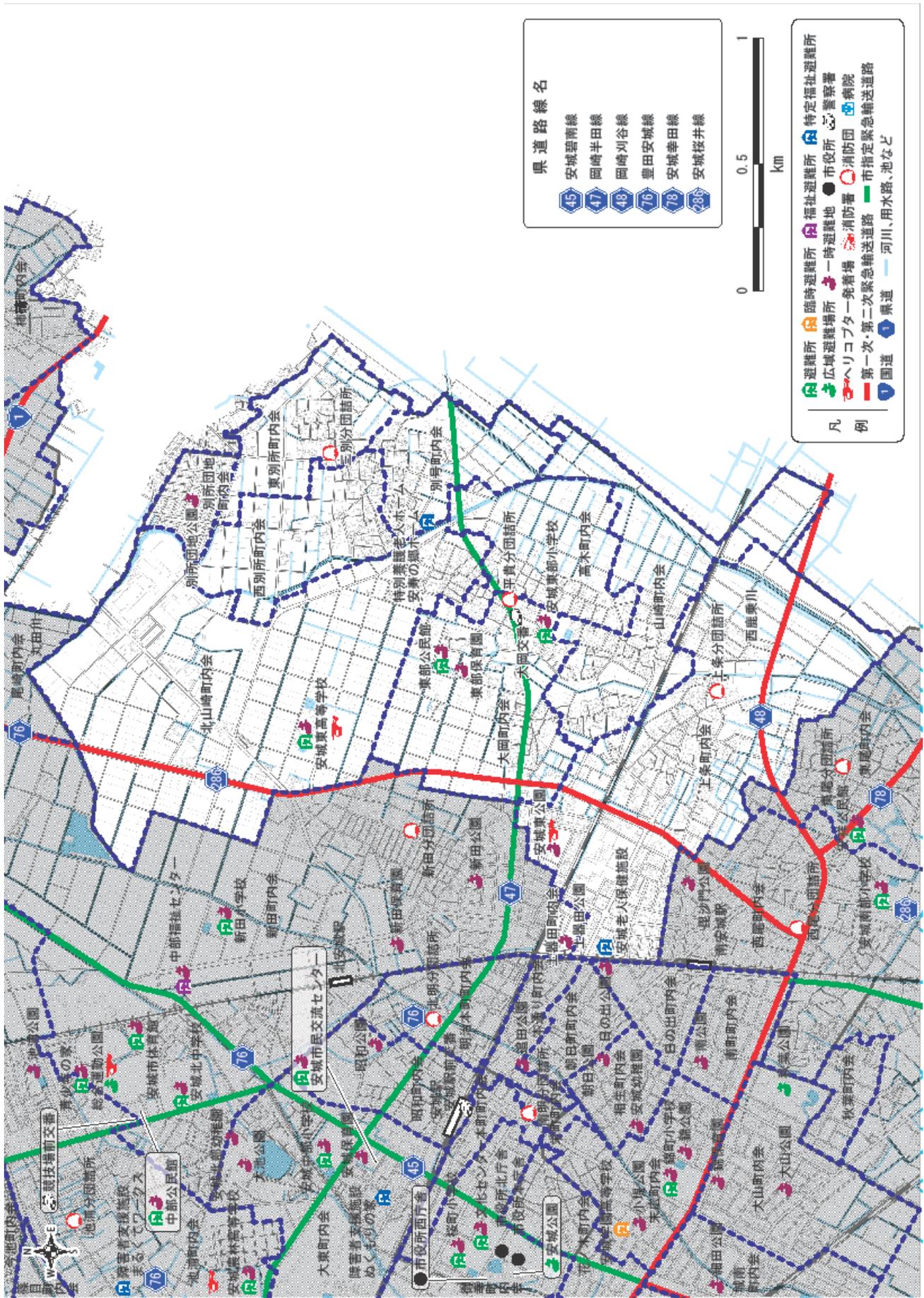
避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	安城東部小学校	76-2334	大岡町前畑 72-1	270
		安城東高等学校	74-1231	北山崎町大土塚 10	840
		東部公民館	77-7881	大岡町源覚 16	280
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	特定福祉※	特別養護老人ホーム 安寿の郷ホーム	76-6133	別郷町油石 105	—
		安城老人保健施設	72-5111	法連町 8-1	—
避難場所等	区分	名称	所在地	面積[m ²]	
	一時	安城東公園	東新町 14 番 1	13,000	
		土器田公園	法連町 10-1	2,200	
		別所団地公園	東別所町戌新畑 1-94	1,200	
		安城東部小学校	大岡町前畑 72-1	5,000	
		安城東高等学校	北山崎町大土塚 10	23,000	
		東部公民館	大岡町源覚 16	1,900	
		東部保育園	大岡町源覚 45	1,300	

※市の依頼に基づき開設される臨時的な避難所

8. 防災上の課題

- ・昭和 57 年以降に建てられた建物の多い地区ではあるが、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 17%、理論上最大想定モデルで約 47%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 13 人、理論上最大想定モデルで 84 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進める必要がある。
- ・火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 224 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすため、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

**平成28年8月配布
安城市危機管理課**